

21 センター病院患者及び自立支援局利用者等に対する東洋療法活動報告(その2)

理療教育・就労支援部 理療教育課

加藤 麦、池田和久、小泉 貴、杉本龍亮、高橋忠庸、中西初男、牧 邦子

【はじめに】

平成 22 年度より理療教育課では東洋療法推進系の業務として、医師からの紹介・依頼・許可のあった患者を対象に教官によるマッサージ・鍼灸の臨床施術を開始した。本事業は教官の臨床技術向上を図るとともに、得られた情報を活用して東洋療法を検証し、利用者に還元することによって、臨床能力向上の一助とすることを目的に実施しているものであり、今回は平成 25 年 1 月から平成 25 年 12 月までの 1 年間の活動概況について報告する。

【施術対象者と施術体制】(別紙、図 1 参照)

施術対象者は、①当センター病院入院および外来患者のうち担当医より紹介または許可のあった者、②当センター病院以外の医療機関から紹介があった者、③自立支援局利用者(理療教育を除く)で担当医の許可のあった者とした。施術は週 1 回・約 45 分を原則とし、完全予約制で 1 回 800 円の施術料で実施している。施術担当者は理療教育課の理療科教官 7 名が担当した。また、すべての患者に対する共通評価として、主訴、食生活、睡眠、排便・排尿、ストレスの 5 項目について Visual Analog Scale (VAS) で毎回、施術前評価を実施している。

【実施状況】(別紙、表 1 参照)

平成 25 年 1 月から平成 25 年 10 月末現在までの施術人数は、病棟入院患者 3 名、病院外来患者 8 名、自立支援局利用者 9 名、外部医療機関紹介患者 1 名の計 21 名であった。病棟入院患者は 2 階病棟(リハビリ科) 2 名、4 階病棟(リハビリ科) 1 名であり、外来患者は 8 名とも整形外科からの紹介であった。同期間の延べ施術回数は、病棟入院患者 10 回、病院外来患者 98 回、自立支援局利用者 99 回、外部医療機関紹介患者 26 回の計 233 回であった。基礎疾患で最も多いのは脊髄損傷(71.4%)であり、主訴は頸肩こり(61.9%)が最も多かった。

【課題】

昨年度の課題であった施術担当者の増員については 7 名を確保でき、患者を待たせることなく施術開始に結びつけることができた。ただし、患者数の増加に伴い、通常の臨床実習の空き時間を利用した施術に限界があり、施術時間の調整に苦慮する場面もあった。また、頸髄損傷患者に対する施術効果について VAS での評価とデータの蓄積を継続しているが、持続効果についての有効性は個人差が大きく、有効性を証明するには至っていない。しかし、直後効果については患者の満足度が高い傾向があり、現在 VAS を用いて評価を継続している段階である。

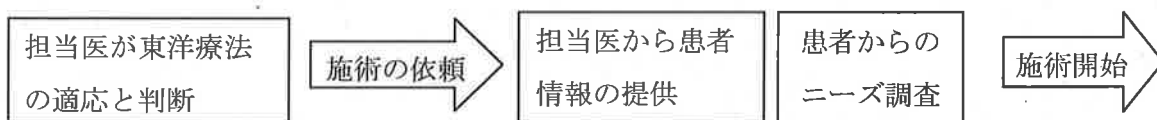
【おわりに】

病院職員のご理解・ご協力により今年度は病院からの紹介患者が増加した。今後も東洋療法に関する情報を発信しつつ、各部署との連携を図り、障害のある患者に対する東洋療法を実践することで有効性を明らかにし、東洋療法が障害者リハビリテーションの一つとして位置づけられるよう目指していきたい。

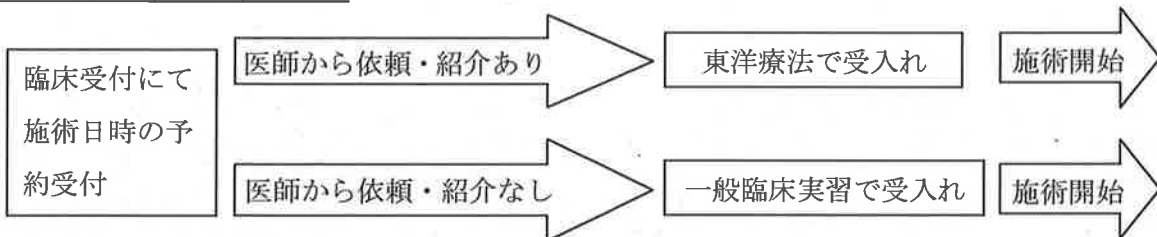
別紙

図1 受入れ手順

1. 当センター病院入院患者



2. 医師からの依頼・紹介患者



3. 自立支援局利用者

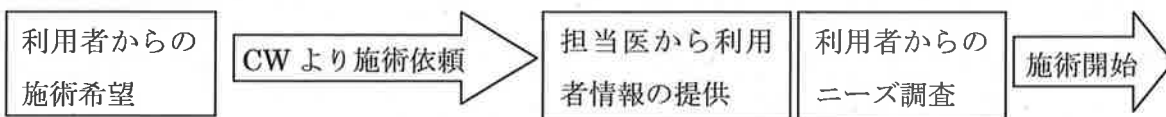


表1. 施術人数と延べ施術回数 (平成25年1月～平成25年10月末)

	センター病院 (入院)	センター病院 (外来)	外部医療機関 紹介	自立訓練 利用者	計
施術人数	3名	8名	1名	9名	21名
延べ施術回数	10回	98回	26回	99回	233回